

芳川笛村 よしとけい 南畫家、漢詩人。天保十四年九月十一日大和國笛堂
村生れ、大正九年一月十二日歿（八四三—一九二〇）。諱橋、字無咎。別號
無咎子、無咎子芳橋、白黃庵、白黃菴主芳橋、笛村桑者、笛村桑者芳
橋、笛郵、笛郵桑者橋、笛郵芳橋、芳橋、葛城山樵、葛城山樵芳橋、
蒼松黃雀洞主芳橋等。九州へ赴き、廣瀬林外に師事、長崎へ日高鐵翁の
門に入る。専ら古法を師とし、十時梅涯に私淑、南京正派を以て自ら
任じた。晩年眼を患ひ神戸に移居、失明後十餘年、須磨に歿す。
著書に「十時梅涯傳」等の他、「皇室南畫（正宗略傳）」を収めた「笛村
遺稿」（昭和五年九月）二十五頁兵庫・芳川筭之助編輯）がある。

